

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「一人ひとりの花を咲かせよう！ そしてともに輝こう！」をキャッチフレーズに、
児童生徒一人ひとりが日々輝き、卒業後にいきいきと社会生活を送ることができるよう、
以下の学校づくりを行う。

- 1 知的障がい教育の理論と実践の積み重ねに裏付けられた専門性の高い教育を行う学校
- 2 保護者や地域の人たちとともに児童生徒の一つひとつの成長を喜び合う学校
- 3 教職員がいきいきと働く学校
- 4 地域の小中学校等が自立して支援教育を推進することをサポートする学校

2 中期的目標

1 知的障がい教育の専門性向上

＜学校教育自己診断の保護者評価「学校に対する意識」R8まで80%以上を維持（R3:78%、R4:77%、R5:82%、）＞

キャッチフレーズ：「寝屋川支援プライド ～誇りをもって～」

(1) 児童生徒一人ひとりに応じた教育を実践する（自閉スペクトラム症の特性に応じた指導支援を含む）

- ア 課題にアプローチする教材・教具の工夫を行う
- イ 自立活動を推進する
- ウ 効果的な指導方法を検討する
- エ シラバスをブラッシュアップする

(2) 卒業後を見据えた進路指導を充実させる

- ア コース制での学習の充実を図る
- イ 卒業後の社会参加と自立を見据えた実習及び進路の充実を図る
- ウ 卒業後の社会参加と自立を見据えた効果的な進路指導を推進する

(3) 時代にマッチした教育理論を構築する

- ア カリキュラム・マネジメントを充実させる
- イ 効果的な指導支援体制を研究・推進する
- ウ ICTを活用した取組みを推進する
- エ 生涯にわたって学ぶ姿勢を支援する
- オ 人権感覚を育む
- カ いじめの未然防止に努める
- キ 防災・防犯に努める

(4) 次世代教員を育成する

- ア 人権感覚を高める
- イ 他学部での取組みを知る機会を作る

2 保護者・地域・関係機関との連携

＜学校教育自己診断の保護者評価肯定的評価(平均) R8まで70%以上を維持（R3:84%、R4:78% R5:64%、）＞

キャッチフレーズ：「分かり合い ともに子どもを 育てよう！」

(1) 保護者との連携を深める

- ア キャリア教育プログラムの活用を推進する
- イ 保護者が悩みを相談できる機会を作る
- ウ 通学バスの位置情報を提供する

(2) 地域・関係機関との交流・連携を推進する

- ア 学校間交流を推進する
- イ 民間委託された給食室と連携を図る

(3) わかりやすい最新の情報発信・収集を行う

- ア デジタル化を推進する

3 働き方改革

＜教職員の心身の健康のため、「府立学校ストレスチェック総合健康リスク」について、全国平均ポイントを下げる＞

キャッチフレーズ：「魅力ある授業づくりは教職員の健康から！」

(1) 同僚性の高い職場づくりを行う

- ア ワーク・ライフ・バランスを向上させる
- イ 定時退庁できる雰囲気づくりを行う

(2) 教職員が働きやすい環境整備

- ア 教材バンクの活用を推進する
- イ 分掌長・主事等の業務を軽減する
- ウ 物品・環境の管理・整理・清掃方法を見直す
- エ 個人情報処理業務を削減する
- オ 会議の円滑化・充実を図る

(3) 業務推進体制を整理する

- ア 首席を各PTの要として学校経営の推進を図る
- イ 校務分掌体制を整理する

4 地域支援 ＜地域のスキルアップのため、各校への訪問相談について、各市の教育委員会と協同で実施100%＞

キャッチフレーズ：「地域の自立をサポート！」

(1) 地域との連携強化を図る

- ア 校内外の支援コーディネーターの育成を図る
- イ 高等学校への支援を進める

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 知的障がい教育の専門性向上	<p>(1) 児童生徒一人ひとりに応じた教育を実践する(自閉症入*トラムの特性に応じた指導支援を含む)</p> <p>ア 課題にアプローチする教材・教具の工夫を行う <行動支援 PT></p> <p>イ 自立活動を推進する <自立活動主任></p> <p>ウ 効果的な指導方法を検討する <高等部 各首席></p> <p>エ シラバスをブラッシュアップする <カリマネ PT></p>	<p>(1)</p> <p>ア コミュニケーションでみんな繋がろう! ・コミュニケーション支援のワークショップで手法を学び、校内に広める。</p> <p>イ 一人ひとりの良さを伸ばす自立活動! ・全校・各学部で自立活動の研修・実践報告を実施する。</p> <p>ウ 学ばせ方改革! 授業力パワーアップ! ・授業中の待ち時間を減らし、子ども一人ひとりの活動量を保障する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・学んだ教員の報告会実施 年1回</p> <p>イ ・各学部研修のアンケート結果考察 ・夏季研修のアンケート結果考察</p> <p>ウ ・研究授業の研究協議で活動量が保障されていたかを協議する。 ・准校長の授業観察時に確認する。</p> <p>エ ・全校教科会の設定 年2回 ・システム運用状況の確認 年2回</p>	<p>自己評価</p>
	<p>(2) 卒業後を見据えた進路指導を充実させる</p> <p>ア コース制での学習の充実を図る <進路指導部 高等部></p> <p>イ 卒業後の社会参加と自立を見据えた実習及び進路の充実を図る <進路指導部 高等部></p> <p>ウ 卒業後の社会参加と自立を見据えた効果的な進路指導を推進する <進路指導部 高等部></p>	<p>(2)</p> <p>ア 小さなスキルアップの積み重ね ~卒業後を見据えて、一回り成長していく自分~ ・製品づくりを通してコースごとに必要な働く力を高めるとともに、販売を通して働く喜びや達成感の涵養、コミュニケーション力の体得を図る。</p> <p>イ HOP STEP JOB! ~ここから、始まる~ ・産業現場との連携や外部講師の招へいによる実践的、専門的な学習を保障し、主体的な進路決定に必要な知識の獲得を図る。 ・2年時にコースに応じた実習先での体験実習(2回)を継続実施し、生徒の自己理解や主体的な進路決定に繋げる。 ・1人1人のニーズに応じた進路選択をサポートするために進路先開拓を進めるとともに、福祉事業所・企業・障がい福祉課・ハローワークなど関係機関との連携を強化する。</p> <p>ウ つながる進路~学部間・関係機関連携~ ・職業の授業、取り組みを通じた学部間の児童生徒の交流を実施し、生徒の自信・意欲を高める。 ・小・中学部の保護者の方への情報提供の機会を増やし、先を見据えた進路決定に繋げる。 ・卒業後の生徒の動向を把握し、進路先でのより良い社会参加と自立に繋げる。</p>	<p>(2)</p> <p>ア ・校外の方々を招いた職業バザールウィーク 年1回</p> <p>イ ・職場見学・体験実習を1年生で年3回、2年生で年1回以上 ・外部講師による授業を年1回以上</p> <p>ウ ・2年時にコース別での実習先で体験実習を2回以上</p> <p>・高等部3年生、希望する進路の実現100%</p> <p>ウ ・小学部、中学部との職業交流を実施 年1回 ・各学部への進路ガイダンスを実施。 年1回 ・事業所のパンフレット配付、進路だよりの発行等で情報提供。進路のてびきへ小中学部の進路の動きを追記載 ・直近の卒業生の動向把握と必要に応じた支援。年1回以上</p>	<p>自己評価</p>
	<p>(3) 時代にマッチした教育理論を構築する</p> <p>ア カリキュラム・マネジメントを充実させる <教務部・担当首席></p> <p>イ 効果的な指導支援を研究・推進する <行動支援 PT 支援研究部></p> <p>ウ ICTを活用した取組みを推進する <情報部 DX推進 PT></p>	<p>(3)</p> <p>ア みんなで作る「カリキュラム・マネジメント」 ~浸透の2年目! ~ ・教職員一人ひとりが寝屋川支援学校の「カリマネ」を意識して実践すると共に、全校的な運営を行う。</p> <p>イ 一人ひとりの可能性を輝かせる ポジティブな学校! ・のぞましい行動に向けた支援について研修する。</p> <p>ウ ICTはあくまでツール! 活用のその先へ! ICTの使用を目的とするのではなく、活用を通して生徒の学びを深める取組みを進める。</p> <p>あるあるTV! みるみるネット! ・教室モニタ設置率を改善し、いつでも ICT</p>	<p>(3)</p> <p>ア ・カリマネ通信の発行 学期1回以上 ・研修の実施 年1回以上</p> <p>イ ・行動支援の専門家と協力して学期に1回の見立て、年1回の研修を実施する。</p> <p>ウ ・准校長の授業観察時に確認する。 年1回以上</p> <p>・校内モニター設置増率8%増</p>	<p>自己評価</p>

	<p>エ 生涯にわたって学び姿勢を支援する ＜教育環境部・生活指導部＞</p> <p>オ 人権感覚を育む ＜人権推進担当＞</p> <p>カ いじめの未然防止に努める ＜生活指導部 高等部＞</p> <p>キ 防災・防犯に努める ＜担当首席・生活指導部＞</p> <p>(4) 次世代教職員を育成する ア 人権感覚を高める ＜高等部＞</p> <p>イ 他学部の取組みを知る機会を作る ＜担当首席＞</p>	<p>を活用した環境改善を図る。 これは私、これはあなた、のタブレット！ ・1人1台端末に、個々の授業等の情報をストックし、端末を個別化して活用する。</p> <p>エ ステキな出会い 図書室から！ ・生徒が読みたい本を積極的に取り入れ、興味関心が広がる読書教育を推進する。 おめでとう50周年！ みんなで創るこれからの歴史！ ・50周年記念行事に向け、児童生徒が主体的に取り組める集会開催方法を再構築する。 おはよう！みんなで作る笑顔の輪！ ・学部を越えて児童生徒会と一緒に朝のあいさつ運動を実施する</p> <p>オ 高めよう人権感覚！皆違って皆いい！ ・人権をテーマにした授業で実施する。</p> <p>カ みんなで守ろう、みんなの笑顔。 ・「いじめ対策委員会」を学期1回開催、いじめに繋がる事案等の確認を行い、未然防止に努める。またいじめ事案が確認されたら即ち委員会を開催し、組織としての対応を検討する。 ・『学校いじめ基本防止方針』を改訂、教職員・保護者へ周知する。 ・「部集会」で各学部生活指導部より、児童生徒に向け、いじめ防止に関する講話を実施する。</p> <p>キ みんなが主役！ 準備万端の舞台裏で守るぞネヤガワ！ ・改訂したマニュアルを基に、教員向け訓練児童生徒向け訓練の双方を実施する。</p> <p>(4)</p> <p>ア 子どもの人権尊重！ 広げよう前向きな言葉かけ！ ・子ども一人ひとりの人格を尊重し、ポジティブな言葉かけで行動を促す。</p> <p>イ 学校せ〜んぶ、笑顔でつながろう！ 寝屋川ファミリー（教員版） ・教職員の学部間交流を計画・実施する。</p>	<p>・年度末に活用に関するアンケート実施 肯定的評価 60%以上</p> <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書室内の環境整備の継続。 ・書籍の入れ替え。(新規購入・寄贈等を合わせて全書籍の10%) <p>・部集会 学期に1回以上</p> <p>・あいさつ運動 週1回以上</p> <p>オ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動や道徳の授業で学期に1回 <p>カ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育の自己診断の保護者評価「いじめについて」65%以上[62%] <p>・学校いじめ基本方針を改訂後、HPへ掲載。 ・部集会で講話 年1回以上</p> <p>キ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練（地震1回・火災2回・弾道ミサイル1回） ・防犯訓練（教員・児童生徒各1回） <p>(4)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長の授業観察、部主事等からの聞き取りで確認 年1回以上 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十分な準備のもと、他学部の初任者・ミドルリーダーが丸一日担任を入れ替わり、児童生徒の指導支援を行う 年1回 	
<p>2 保護者・地域・関係機関との連携</p>	<p>(1) 保護者との連携を深める ア キャリア教育プログラムの活用を推進する ＜教務・進路指導・支援部・高等部＞</p> <p>イ 保護者が悩みを専門医に相談できる機会を作る ＜保健室＞</p> <p>ウ 通学バスの位置情報を提供する ＜生活指導部＞</p> <p>(2) 地域・関係機関との交流・連携を推進する ア 学校間交流を推進する ＜高等部＞</p> <p>イ 民間委託された給食室との連携を図る ＜健康教育部＞</p> <p>(3) わかりやすい最新の情報発信を行う ア デジタル化を推進する ＜管理職・首席＞</p>	<p>(1)</p> <p>ア 輝く未来はキャリアプロから！ ・キャリア教育プログラムを保護者とのコミュニケーションツールとして活用。 ・キャリア教育プログラムと授業実践の連携を深める。</p> <p>イ 相談室へいらっしゃい！ ・小児発達・精神科の専門医に保護者をはじめ、だれでも気軽に相談できる場を設定する。 ・できるだけ担任も同席し話を共有する。</p> <p>ウ 安全安心の登下校！ バス今どこ？バス今ここ！ ・バス会社と連携し、漏れのない位置情報を提供し、保護者のアプリ活用を促進させる。</p> <p>(2)</p> <p>ア こんにちは！寝屋川支援学校です ・各学部において、学校間交流を行う。</p> <p>イ おいしい給食ありがとう！ 伝えます！感謝の気持ち ・食管受け取り・返却時に「いただきます」「ごちそうさま」等の挨拶を励行する。</p> <p>(3)</p> <p>ア ペーパーレス化で神（紙）ですか24！ ・メール配信システムやフォーム作成ツールの活用を進め、プリント配付やアンケート回収等についてデジタル化を推進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・懇談時にキャリア教育プログラムの課題と進捗を確認。年2回 ・キャリア教育プログラムを意識した授業設定を総合的な探究の時間に実施する。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期2回以上の実施 ・1回につき2件以上の相談 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報提供 バス運行日数×2回以上 <p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校間交流実施 年1回以上 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末に教職員アンケートを実施「挨拶が増えた」肯定的評価 67% <p>(3)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校配付プリントの配信率 90% ・全校アンケートのデジタル化 90% 	

<p>3 働き方改革</p>	<p>(1) 同僚性の高い職場づくりを行う ア ワーク・ライフ・バランスを向上させる<管理職> イ 定時退庁できる雰囲気づくりを行う<管理職></p> <p>(2) 教員が働きやすい環境整備 ア 教材バンクの活用を推進する<教務部> イ 分掌長・主事等の業務を軽減する<学年主任> ウ 物品・環境の管理・整理・清掃方法を見直す<教育環境部 健康教育部></p> <p>エ 個人情報処理業務を削減する<管理職> オ 会議の円滑化・充実を図る<全校></p> <p>(3) 業務推進体制を整理する ア 首席を学校経営の要として配置する<管理職> イ 校務分掌を整理する<管理職></p>	<p>(1) ア 1に健康 2に生活 34がなくて 5に仕事! ・働き方改革を推進し、ワーク・ライフ・バランスを向上させる。 イ あっ!定時や!か~えろっと! ・会議日程や方法を検討すると共に、管理職も早く退勤し、退勤しやすい職場づくりを行う。</p> <p>(2) ア 児童生徒・教員・皆のニーズを満たす ICT活用! ・ストックされた教材は活用し、新たに制作した教材は、教材バンクへ。 イ 分掌長さんそれやりますよ ・業務の平準化のため、分掌長・主事等の学年業務の軽減を図る。 ウ 無駄なく長い付き合い! ・備品、消耗品、教材の管理を行う。</p> <p>チェックでつなぐ安心安全! ・校内安全点検を実施し、教育環境を整える。 児童生徒・教員・環境にも優しいプール! ・プール清掃・維持業務の負担を軽減するため洗浄促進剤を活用する。 エ 溶解にして、他の仕事しよう改! ・年度末個人情報処理を、シュレッダーから溶解に変更し、業務軽減を図る。 オ 「こうあるべきだ!」はやめましょう! 柔軟に問題解決! ・提案を却下する場合、代替案を提示し、建設的で円滑な検討を行う。 これ、なんのためにやってるの? 「例年通り」はやめましょう! ・行事等を検討する際、教育効果の向上を図ると共に働き方改革を進める。</p> <p>(3) ア 強化します! 首席間連携・教頭との連携 ・総括首席を指名すると共に、首席を教頭補佐として連携を更に強化する。 イ 分掌から飛び出すPT! ・分掌とPTの担当をそれぞれ独立させ、業務の平準化・推進を促進する。</p>	<p>(1) ア ・ストレスチェックの総合健康リスクを昨年度より上回る〔107〕 イ ・時間外勤務実績昨年度比3%削減</p> <p>(2) ・学校教育の自己診断の教職員評価 ア ・教材バンクに格納された情報教材数 昨年度比 120% イ ・首席・分掌長等への面談時に確認 ウ ・職員用ロッカー・靴箱、教材倉庫の整理整頓の実施 ・50周年の取組みに関連し、清掃用具を中心とした新機購入・管理 ・毎月の安全点検の実施と補修の依頼の実施 ・プール学習開始前に洗浄促進剤を投入</p> <p>エ ・溶解処理の計画・実施 オ ・首席・分掌長等への面談時に確認</p> <p>・学校教育自己診断教職員評価 「行事の工夫・改善」80%以上〔76%〕</p> <p>(3) ア ・総括首席を指名する ・首席を教頭補佐とする ・首席会を実施する ・PTの推進担当とする イ ・首席・分掌長等の面談時に確認</p>	
<p>4 地域支援</p>	<p>(1)地域との連携強化を図る ア 校内外の支援コーディネーターの育成<支援部、LS> イ 高等学校への支援の実施<支援部、LS></p>	<p>(1) ア 地域の学校と共に学ぼう「支援教育」! ・各市町村と連携し、地域のコーディネーターの育成を図る。 ・年に5回以上LS以外の教員が巡回や研修講師に同行する。 イ 社会へ羽ばたく力を育もう! ・支援教育サポート校と連携し、高等学校(含私学)等への相談支援を進める。</p>	<p>(1) ア ・すべての依頼について、各市の教育委員会と協同で実施 ・同行回数 年5回 イ ・高等学校(含私学)への相談支援・研修等を2回以上、実施</p>	